



TITLE:

全天星圖：新刊紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

全天星圖：新刊紹介. 天界 1934, 15(164): 78-78

ISSUE DATE:

1934-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166917>

RIGHT:

望遠鏡——反射望遠鏡の鏡は年々、二回の渡銀を要することが缺點とされて居たが、1933年に渡銀の代りにアルミニウムを用ひればよいことが發明され、米國では二、三箇所に備付けられたが、これは高價なのが缺點である。

ラヂオの報時は漸次正確となつて、今日では百分の二、三秒しか誤差がないので日常生活には十分で、天體觀測の方にも、簡単なことには利用されるのである。

天文臺の必要なことは云ふ迄もないことである。百聞は一見にしかず、百の説明よりは一回實地に視察されることが肝要であると。

三日間に亙る山本博士の明解な講話を終了されたので、直ちに講習證書授與式が行はれ、水野主事は報告をなし、今回の講習會員の納付された。會費は45.50しかない。この會が社會奉仕的で、主催者が如何に多くの犠牲を拂つて居るかを想像されたいと附加した。原名譽臺長は式辭を述べ、二十七名に講習證書を授與し、講習會員總代として兵庫縣立福岡高等女學校教諭笹井準二氏の謝辭、講師山本博士の挨拶によつて、意義ある本講習會は終了したのである。

山本博士は午後一時三十一分倉敷發歸洛された。年々殘暑の折柄來敷され熱心に親切に斯道の爲めに献身的に御盡瘁下さることを感謝する次第である。

## 新刊紹介

## 全 天 星 圖

村上忠敬理學士著 恒星社版 價3.50

およそ通俗天文の文獻として最初に世に出でるべき筈のものが、星天のアトラスなのであるのに、我が國の天文知識が今日ほど普及してゐる場合、こうしたものが殆んど一冊も無かつたのは不思議である。村上氏の此の近著は此の欠陥を補ひ、更に多くの天文ファンを呼び起すものとして珍重せられると思ふ。星圖も明瞭であるし、説明文も親切に、極めて要領よく出來てゐる。さすが専門家の作つたものだけに、危なけが無く、又、見落しがない。星座や星の名も多くは極めて妥當なものであるから、一種の標準とするに足る。——只、恨むらくは、價が少々高い、もつと廉價な普及版を作つて貰ひたい。